

[所 感]

長崎市議会議員 小宮 慶一

欧州行政視察訪問について

4月14日から25日まで、ドイツのヴュルツブルク市、モナコ公国、スイスのジュネーブ市の欧州三市を市長と議長に同行して視察、訪問したので、その「所感」を報告します。

1、ヴュルツブルク市と「市民友好都市」提携

本市とヴュルツブルク市との「市民友好都市提携確認書」の調印式は、4月17日、午後2時からヴュルツブルク市役所の議会堂で執り行われた。

式には、中根 猛 駐独日本大使をはじめ、ヴュルツブルク市側からローゼンタール市長とブランデンシュタイン・シーボルト協会会長、長崎市からは市長と議長、議員団も同席、それぞれに四氏があいさつを述べたあと両市長が確認書に署名して行われ、私ども議員団もそれぞれに記名させていただいた。会場には、市民らとともにヴュルツブルク大学の日本人留学生3人も同席していて、友好、交流の大切さを実感した。

調印式に先立ち、前日の16日には、シーボルト博物館をはじめヴュルツブルク市街地を視察、シーボルト協会理事長・バイライス氏らの手厚い説明と案内により、シーボルト自身の生い立ちやシーボルトがつなぐ両市の歴史的関係の深さを学ぶことができた。

市街地の視察では、マリエンベルク城などの歴史的建造物を中心に見学した。感動したのは、世界遺産に登録されているヨーロッパ屈指の宮殿・レジデンツの威容さだった。特に、建物内部のテイエポロが描いたといわれる世界最大の天井一枚画のスケールの大きさと、今でも、当時の美しい色彩を保っているという石灰を駆使した、その巧みな技法には感銘させられた。

今回の訪問では、ヴュルツブルク市民やシーボルト協会の人たちと心を開いて交流を重ねる中で、シーボルトがつなぐ両市の友好関係をより確かなものにすることができたと思う。

2、モナコ公国訪問と夜景観光

モナコに着いたのは18日の午後3時過ぎ、メドサン・駐日モナコ大使とプロジェクトイ・モナコ日本協会事務局長が出迎えてくれた。そしてこのお二人には最後までお世話いただいたが、今後につながる有意義なモナコ訪問となったことを、まず感謝申し上げたい。

モナコでは、夜景の観賞から始まった。まず、18日の夜は、エルキュール港の堤防から煌々とそびえ立つ市街地の夜景を海から観賞、翌日は逆に、魅惑的な港や闇夜にライトアップさ

れた宮殿や歴史的建造物など、輝くモナコの夜景を上の方から観賞することになった。

19日は、朝一番でモナコ市役所を表敬訪問、二人の市長代理が丁寧に説明、対応してくれた。その後、会議室を移動して、モナコ政府観光会議局局長のギョーム・ローズ氏からモナコ観光についてのプレゼンテーションがあり、質疑と意見交換が行われた。

局長は、モナコの人口は約3万6千人だが、昼間は5万人を超える。観光客は年間700万人。娯楽が82%で、18%がMICE関係者だ。今後は、夜景観光のPRと併せてイベントやラリーなどを仕掛け、医療や環境問題等の観光と会議を兼ねた利用者の増を図りたい、と。

次いで、モナコ政府設備・環境・都市計画省局長のクラブェラン氏から、環境対策についての説明があった。環境対策では、生物や資源保護、排ガス問題にも力を入れ、持続可能な社会づくりを目指している。排ガスでは、路線バスの利用促進と電気自動車の普及に努めている。電気自動車の購入には国が30%を補助、市内に238個の無料の充電設備を備えている、と。

最後に、「ピースアンドスポーツ」創業者兼事務総長ジョエル・ブズ氏からモナコのスポーツを通じた平和への貢献活動の紹介があり、田上市長からも「国際平和市長会議とも情報の共有化を図りたい」との発言があるなど、議員からも活発な質疑と意見が交わされた。

その中で、モナコ側から世界新三大夜景に認定されたことを記念して、「名誉証明書」が交付されることになり、夜景を通じた両市の今後の連携を確かめ合う場となった。

市街地の夜景は20日になった。最初に訪れたのはモナコ大聖堂。グラン司祭の「長崎のカトリック大司教との連携を図りたい」という言葉が印象的だった。

モナコは、2km²の小さな都市だが、スキー場やゴルフ場もありリゾート施設も多い。感心したのは、地下道を駆使した縦横無尽の道路網で斜面地を感じさせない躍動的な街の姿だった。

3、国連欧州本部とジュネーブ市訪問

欧州訪問の最後は、スイスのジュネーブ市となった。ジュネーブ市は、国連欧州本部をはじめ主要な国際機関が置かれている、時計で有名な国際都市である。

22日は、まず、国連パス登録のため、朝8時から国連本部前に並んだ。会議場に入ったのは、9時半を過ぎていた。NPT再検討会議第2回準備委員会は10時開会予定であったが、始まる気配もないまま、先に同本部のチクバイゼ図書館長を表敬訪問することになった。

図書館長は全員を迎え入れてくれた。まず、田上市長から昨年実現した常設原爆展のお礼と、今後の展示内容の改善を要請した。図書館長は、いろいろな国の考えがあって展示までには調整で苦労した。自分は、原爆の影響は分かるし展示は重要だと思っている。今後も内容の充実に努めたい、と前向きにに応じてくれた。みんなでお礼とお願いをして展示現場に向かったが、展示までのご苦労と内容の改善を思いながらの見学となった。

わずかの時間だったが、再検討準備委員会を見学して、いろいろな国のいろいろな人種の人による国際会議の様子を、同時通訳で聞きながら傍聴できたことはいい体験だったと思う。

国連本部を出ると、軍縮会議日本政府代表部への表敬訪問に向かった。代表部へは、長崎から派遣されたユース代表8人と広島市長らも一緒だった。

日本政府代表部では、天野万利特命全権大使と岡田氏が、対応してくれた。

天野大使は、2015年のNPT再検討会議に向けたアクションプランを着実に実施している。スイスなどが核兵器の非人道性を呼びかけており、お株を奪われた感じだが、全体としての運動になり得るか難しい面もあるようだーと、日本の立場と取り組みを説明した。

これに対し、広島、長崎の両市長はじめ市議団やユース代表からは、核兵器の非人道性と核兵器のない世界の実現をもっと前面に出すべきではないか、と強い要請があった。

しかし、後日の報道でも、核兵器の非人道性に関する共同声明に対して、日本政府が賛同することはなかった。核兵器のない世界の実現に向けた運動の難しい局面を体験することになったが、同時に、地道な運動の積み重ねがいかに重要であるか改めて知らされた思いである。

以上